

カトリック六甲教会 教会報



新年明けまして、おめでとうございます！

主任司祭 加藤 信也 S. J.



新しい年 2026 年が始まりました。皆さまは、新年をどのようにお迎えになったでしょうか？

「もういくつ寝ると お正月、お正月には 凧あげて、こまを回して 遊びましょう、早く来い来い お正月 ♪」（童謡「お正月」）。この歌には「凧あげ、こま回し、まりつき、羽根つき」と、今では見られなくなった日本のお正月風景が登場します。

以前ペルーで過ごした頃に出会った日系人の人たちには、日本に住む私たち以上に日本人らしさを感じさせられました。異国で生まれ育っても日本人でいたいという思いからなのでしょう、言葉遣いや立ち居振る舞い、客のもてなし方など、まるで私の祖父母やその時代の人たちと過ごしているような不思議な懐かしさを覚えました。日本人のアイデンティティーを守り続ける人たちと言えいいのかもしれませんが。

聖書には「律法」が現れます。われわれ日本人にとっては、なぜこんなことを守らねばならないのか、と不思議に思うことばかりですが、近隣の列強に攻め込まれたり、国が滅んでしまっても、律法を守ることでより民族のアイデンティティーを守り続けることができると考えたようです。

「みんなちがって、みんないい」（金子みすず）とも言います。しかし一つになれない現実には、イエスの嘆きにもなりました。「エルサレム、エルサレム、…めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった」（マタイ23.37他）。一つに集めようとするイエスと、それに応じようとしなない世界。

残念なことに世界の姿は、イエスの呼びかけに反して一つになろうとしない傾向、異なるものを排除する方向に進んでいるようでもあります。一方はアクセルを、他方はブレーキを踏み、世界の舵取りはますます難しさを増しているかのようです。

希望に向かって歩むのが私たちキリスト者、始まったばかりの新しい年が明るい方向へ進むことを祈るばかりです。





2025 年 11 月 30 日、小聖堂前で。(記念写真撮影は、宗行孝之介 80 周年記念事業プロジェクトチーム長)



2025 年は、阪神・淡路大震災後にカトリック六甲教会の聖堂が新しく献堂されて 30 周年という記念の年になります。無事に礼拝が守られ、活発な教会活動が継続していることを祝うため、11 月 30 日（待降節第 1 主日）に、献堂 30 周年記念ミサが行われました。ミサは、加藤信也神父と片柳弘史神父（山口サビエル記念聖堂〔カトリック山口教会〕主任司祭）の共同司式で行われました。片柳神父は、かつて当教会で助祭として働かれたご縁があり、この日の共同司式をお願いしたところ快くお引き受けくださいました。10 時からのごミサは、聖堂の座席が満席となりました。

ミサ後は、主聖堂で片柳神父の講演「阪神淡路大震災復興の歩みの中で～片柳神父が語る当時の六甲教会」が行われました。阪神・淡路大震災の後にも、日本は東日本大震災、その後何度も震災を経験していますが、「復興の架け橋」ということばに象徴されるように、そこには被災地の方々と行政・ボランティア、支援者をつなぎ、協力し合ながら、復興を前に進めるはたらきが求められます。そのことを踏まえ、講演では片柳神父ご自身が経験された東日本大震災のボランティア活動や、現在に至る問題点を指摘されました。講演の後半では、六甲教会での信徒の皆さんや子どもたちとの交わりが、思い出の写真とともに紹介されました。講演は、「乏しさの中にこそカトリック信仰の希望がある」という熱いメッセージで締めくくられました。

カトリック教会を取り巻く様々な厳しい課題のある中で、信徒一同が希望を新たに作る、とてもよい時間を持てたことに、心から感謝したいと思います。講演の後は、前庭で記念撮影（写真中央後方の片柳神父を探してみてください）。イグナチオホールでは茶話会が開かれました。信徒の方々の手作りケーキやクッキーをいただきながら、片柳神父を囲んで和やかに歓談が行われました。

2028 年にはカトリック六甲教会創立 80 周年を迎えます。献堂 30 周年という節目を超えて、これからも私たちがカトリック六甲教会で神の光に照らされた信仰の道をしっかりと歩いていくことができますように。

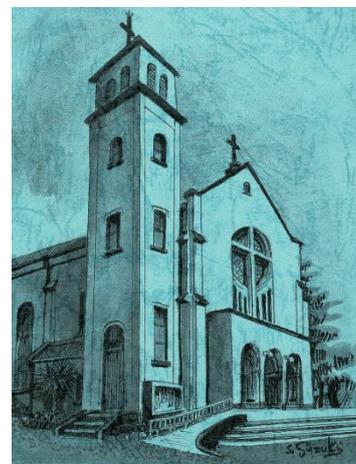
80 周年記念事業プロジェクトチーム 松井 理直

献堂 30 周年を記念して～新聖堂の建設計画～

2025 年 11 月 30 日の献堂 30 周年記念ミサ後のイグナチオホールでの茶話会で、施設管理部 本下稔氏に、新聖堂建設に至る経緯をお話いただきました。献堂当時の貴重な証言として、改めてここにまとめていただきました。

1. 旧聖堂の老朽化と新教会堂の計画

旧聖堂(1953 年 5 月築;木造)の老朽化が顕著になったため、その健全度を調査する目的で 1989 年 4 月に小教区評議会から委託された組織として建設委員会(12 名構成)が設置されました。調査時点で既に築 36 年を経過した聖堂の主要部材である木製の柱の下端部はシロアリと腐朽菌に侵され、極めて危険な状態でした。専門的な構造解析の結果からも、強風や地震などの水平に作用する力に対して安全とされる法定基準値を大幅に超過しており、建造物としての耐用の限界に到達していることが判明しました。そこで信徒の皆さんへの説明と意見集約、ならびに評議会の協議と承認を経て、まずは応急に鋼製控壁による旧聖堂の補強工事と、新教会堂の建設が決定されました。



旧聖堂(鈴木 進氏画)

2. 建設事業の概要

旧聖堂より使用年数の長い旧司祭館(1948 年 12 月築;木造)は、解体して新教会堂に併設することとし、信徒会館(1971 年 6 月築;鉄筋コンクリート造)と信徒会館増築部(1979 年築;同造:現在の第 1・2 会議室部分)は存置すること、耐震基準を満たしている鐘楼(1956 年築;鉄筋コンクリート造)は六甲教会の象徴として保存することが決定されました。なお、新教会堂の建設中もミサを旧聖堂で継続することとし、新教会堂は敷地の北側に建設することとなりました。

3. 聖堂の基本計画

聖堂の基本計画については、いくつもの制約もありましたが、それらを乗り越えて建設を進めることが出来たことには感謝しかありません。

●敷地形状による制約……教会の敷地は、東西方向は概ね水平なのですが、一方で南北方向は高低差が大きいという特徴があります。現・教会堂建設前の敷地は 2 段構成になっており、北側の上段には司祭館、南側の下段には旧聖堂と信徒会館がありました。当時の西側の市道は幅員 8m 程度の狭い道路でしたが、神戸市の戦災復興事業の一環として 16m に拡幅する計画がありました。そのため、教会敷地の建設可能範囲を約 8m 控える必要が生じたのです。

また、教会堂建設では司祭館の併設および典礼憲章が薦める礼拝集会以外に活用できる集会場や会議室の設置を組込むという大規模な事業となり、敷地の有効な活用が重要な課題であったのです。そのため工事中は旧聖堂と信徒会館および新教会堂を共存させる必要から、全敷地を旧聖堂・信徒会館の地盤に合わせて整地することとしました。

●聖堂の形態……聖堂の形態については、第二バチカン公会議(1962 年 10 月～1965 年 12 月;以下:公会議)以前の旧聖堂と同形態の伝統的な縦長の聖堂を希望する信徒の意見もありましたが、東西幅 40m 強の敷地内に東西軸を持つ縦長の聖堂および司祭館、集会場、会議室の建設は、建物全体のバランスが悪いうえ、空間的にも配置が困難であることが明らかになりました。

●典礼憲章に基づく聖堂計画……公会議で刷新された典礼憲章に基づく一般指針(1964 年 9 月

26日発布)では、カトリック教会の典礼の場の具体的なあり方や考え方が具体的に示されています。指針では、祭壇を「主の十字架上の奉獻が記念され現在化される場所、キリストが招いて下さる主の食卓、感謝の祭儀が行われる場の中心」と定め、全ての会衆が“意識的に”“行動的に”“敬虔に”ミサに与ることを促しています。同時に公会議は聖堂建設の計画では、



現・教会堂の外観(左)と聖堂内部(右)

キリストと使徒たちの「最後の晩餐」と同様に、主に招かれたキリスト者が主の食卓を囲む形態を推奨しています。本計画では、「会衆に対面した祭儀・司式司祭の所作や説教の明瞭な見聞き・会衆の祭儀への注意の集中」などの面から、会衆が主の祭壇を囲むように配置し、祭壇を会衆席より僅かに高くすることにより会衆席と区別する形態を策定しました。

(なお、委員会の調査では、公会議以降に設計・建設されたカトリック教会の聖堂の殆どは上記指針を適用した形態が採用されていることも明らかになった。)

4. おわりに

本稿では、新教会堂の計画の開始から聖堂の基本計画策定までを報告しましたが、一連の事業の各段階では多くの奇跡とも思える神の配慮を経験しました。最も多くの時間を掛けた聖堂計画では、刷新された典礼に関する学習と議論の機会が与えられ、信徒が聖堂建設の理念を共有し、事業遂行の連帯が確認されたこともその一例と考えられます。

(施設管理部 本下 稔)

【社会活動部の今月の予定】

1月10日(土) 10時半 炊き出し 小野浜グラウンド(中央区小野浜町3)

一緒に車で行かれる方は 六甲教会に10時集合です。教会事務に事前にご連絡下さい。

・手芸部とともしび会は、1月はお休みです。

写真は、ともしび会がクリスマスに、養護施設の子どもたちに作ったデコレーションケーキで、2つの施設にそれぞれ4台ずつプレゼントしました。



教会学校便り 神父様がサンタとトナカイに扮装



12月13日の教会学校では、クリスマス会を行いました。リーダーが考えたマルバツクイズや、高校生リーダーによる劇が披露され、会場は終始和やかな雰囲気になりました。製作ではサンタクロースの折り紙を折り、楽しい時間を過ごしました。

会の最後には、加藤神父様と渡辺神父様がサンタクロースとトナカイに扮して登場され、子どもたちの大きな歓声と笑顔にあふれる、心温まるクリスマス会となりました。(辻原 華)



2025年度第4回小教区評議会 議事録(要約)

日 時：2025年11月23日(日)14時00分～15時30分

場 所：信徒会館 第1・2会議室

出席者：堤 福生(議長)、荏原いずみ(副議長)、中村治也(副議長)、岩谷美禰子(書記)、三木宏夫(書記)、蛭田 武(三日月会)、小田琢也(壮年会)、辻原 華(教会学校)、井川直哉(地区会)、堤 緑(典礼部)、井川伸子(社会活動部)、大上尚子(広報部)、本下 稔(施設管理部)、松井理直(防災委員会)、宗行孝之介(80周年記念事業プロジェクトチーム)、西川 葉(事務所)

1. 報告事項

- (1) 三日月会例会(9月15日)：60名が参加。 ※10月号教会報参照。
- (2) 典礼講習会(10月5日)：約120名が参加。 ※11月号教会報参照。
- (3) 秋の遠足(10月18日)：34名が参加し岡山教会、後楽園へ。 ※11月号教会報参照。
- (4) 祈りと音楽の集い(10月19日)：約120名参加、63,730円の献金 ※11月号教会報参照。
- (5) 秋の黙想会(10月25日)：英 隆一朗神父(防府教会)の指導。
3年6回シリーズ最終回 ※11月号教会報参照。
- (6) 教会学校 秋の錬成会(10月25、26日)：リーダー数不足で中止。
- (7) ミニコンサート(11月1日)：スリーワイズメンの歌、約100名参加。
- (8) 秋の墓参(11月2日)
- (9) チャリティバザー(11月9日)：29の出店があり、支援金377,213円、教会献金額400,712円であった。
- (10) 三日月会例会(11月12日)：酒井俊弘補佐司教(大阪高松大司教区)をお迎えして終活やスペイン巡礼のお話。 ※12月号教会報参照。
- (11) 七五三の祝福(11月16日)：10時ミサ中に7名が祝福を受けた。
- (12) その他各部・各会からの報告
 - ・ 広報部：10/25(土)の黙想会については、YouTubeでも視聴可能にした。
 - ・ ハラスメント対応委員会が11/11(火)に開催、当小教区では具体的な案件なし。
1月に研修会を予定。
 - ・ 80周年記念事業プロジェクト：7/27(日)に座談会(過去～現在)を実施、また歴代司祭による原稿の依頼の発送準備をしている。
 - ・ 社会活動部：12/14(日)まで毛布などの防寒用品を募集中。(カトリック社会活動部神戸センターからのお願いに基づく)。
 - ・ 12/6(土)神戸中央教会でチャリティコンサート。加藤神父・渡辺神父も出演予定。

2. 協議事項

- (1) バザー収益金の使途
 - ・ 自然災害被災者支援がテーマのチャリティバザーのため、教会献金400,712円は、大分市佐賀関地区の火災(カリタスジャパン等の支援窓口がまだ立ち上がっていないが)で被害を受けた方々の支援金とする。
 - ・ この機会にこれまで教会とつながりがある団体への献金も昨年度と同様に行う。
計35万円を「六甲教会愛の献金」から支出。
シナピス大阪、カトリック社会活動神戸センター、こどもの里へ各10万円、船員司牧5万円。
ただし、ひらめの家は、同団体が出店し売上があったため、関係者から寄付辞退の連絡あり。
- (2) 教会事務職員の安全対策
 - ・ 六甲教会セキュリティ対策ワーキンググループが作成した案を承認。(6頁参照)
本年度中に工事等施行終了予定。信徒への安全対策概要の説明会を行う。

- (3) 防災委員会の業務拡大について
以下の2点を追加し、②については防災委員会から予算要求を行う。
①消防点検・消防署報告等の消防活動、②セキュリティ関連・AEDの管理運営。
- (4) イグナチオ喫茶のボランティア募集について
・現在2組の応募あり。1組が年3回運営するとして6回と2ヶ月に1回となる。
毎月実施のニーズが高いため、残り6回を地区会で運営することを検討。

3. 今後の行事予定

- (1) 教会大掃除：今回から小教区評議会の担当となった。
11月29日(土) 9:00～ 屋内の大掃除
12月6日(土) 9:00～ 屋外の大掃除 ※落葉が終了するころ。
教会学校、中高生会、青年会等の若い方々の参加を求める。
- (2) 新聖堂献堂30周年記念ミサ：11月30日(日) 10時～ 加藤信也神父と片柳弘史神父
(サビエル記念聖堂 [カトリック山口教会]) が共同司式。
①片柳神父のスライド講演(約30分)、②参加者全体の集合写真、③茶話会(60～90分)
- (3) 2026年度活動計画と予算申請：11月30日(日)が提出期限。
- (4) クリスマス音楽の集い：12月21日(日) 14時～ 主聖堂。
- (5) 主の降誕ミサ
12月24日(水) 17時(子供ミサ)、19時、21時の3回。17時のミサは大混雑が予想されるため、できるだけ19時・21時ミサへ。
12月25日(木) 7時、10時。
- (6) 神の母聖マリアミサ：1月1日(木、祝) 7時半、10時
※12月31日(水) 23時ミサは行わない。
- (7) クリスマス飾りの片付け 1月10日(土) 13時～ お手伝いをお願いしたい。
- (8) 新成人祝福式：1月11日(日)10時ミサ中に行う。

4. その他各部・各会からの提案

- (1) 2026年度行事予定について(広報部)：行事予定表の資料となる、「教会暦と聖書朗読」がカトリック中央協議会より出た後に作成、配布する。
- (2) 80周年記念事業プロジェクトチーム：イグナチオホールにパネル設置。教会年表作成に必要な震災前後(1990～1997年)の情報が少ないため、30周年記念茶話会などで情報提供を期待。
- (3) 典礼部から
・11月29日(土)18時ミサ：ハリストス正教会からの転会式(片柳神父・渡辺神父)
・12月3日(水)：聖フランシスコ・ザビエルの祝日
7時に加えて10時にもミサ(加藤神父・森神父：イエズス会)
・2月11日(水、祝)：世界病者の日、10時ミサは行わない。 以上

次回、第5回小教区評議会 2026年1月11日(日)11:30～ 第1・2会議室



六甲教会セキュリティ対策ワーキンググループ

堤 福生委員が12月7日(日)のごミサ後に、教会内の安全性向上と対策について、以下の周知を行いました。

すでに一部が実施されている信徒会館2階会議室等の土日以外の施錠に加え、平日勤務の教会事務職員の安全性確保のため、監視カメラの設置、セコムとの連携、事務室入口のオートロック改修、避難路の確保(工事)を行うこととし、2025年末までに実施することとしました。

監視カメラの存在自体が不審者への抑止となり、信者や一般来訪者に対して、施設の信頼性を高めることになる——としました。

第5回地区役員会議事録

日 時：2025年11月29日 11:30～12:00

場 所：信徒会館第1・2会議室

出席者：加藤主任司祭、堤小教区評議会議長、各地区役員

1. 主任司祭挨拶

大掃除参加の慰労。典礼暦では、明日（11/30）が今年最後の日。年末になると教会行事も色々と忙しくなるが、協力をよろしくお願いしたい。

2. 報告事項

1) チャリティーバザー（11/09）報告 バザー企画グループ（井川直哉）

今年も、昨年同様個人出店を募集、29店が出店（昨年26店）。

ボランティア団体の支援金は377,213円（各支援先に寄付）、その他の教会への献金額は400,712円。

教会への献金は、大分市佐賀関地区の火災（カリタスジャパン等の支援窓口はまだ立ち上がっていないが）で被害を受けた方々の支援金とすることに小教区評議会で決定した。

改善点

- ・バザー開始が11時15分であったが開始前に購入する人がいた、開始時間を厳守して欲しいとの意見があった。次回から、10時ミサ終了直ぐに開催を検討することをバザー委員会に提案することになった。

- ・バザー前日の物品搬入時に、エレベータートラブルがあり、搬入者が直接、エレベーター業者に連絡・処理したとのことであった。こうしたことは情報共有が大切なので、今後、エレベーターのトラブルが発生した場合は、教会事務を通して処理することを徹底することとした。

2) 新年度 イグナチオ喫茶 応募状況

イグナチオ喫茶コーディネーター（藤井敦子）

募集内容の説明。現在2組が応募とのこと。応募数が少ないので、週報、ミサにて具体的な活動内容を説明して参加者を積極的に募ることとした。

3) 新年度 教会掃除新体制移行について（教会掃除改善プロジェクトチーム 橋岡尚美）

- ・掃除当番募集内容の説明
- ・自動掃除ロボットの導入
- ・小教区評議会の組織下に掃除委員会（仮称）を設立することを小教区評議会で提案
- ・大阪シナピスへの掃除委託は中止し、他の業者を探す。
- ・掃除委託費の予算化
- ・掃除献金の設立 ——を検討しているとの報告があった。

3. 今後の予定

1) 11/30（日） 献堂お祝い会お茶会 灘北1・北・三田地区担当

10時ミサ後、聖堂で片柳神父の講話、教会前庭での集合写真、イグナチオ喫茶開催。
イグナチオ喫茶ではケーキ、サンドイッチ提供。

2) 教会行事予定表・連絡網・掃除当番表等配布日程

- ・2/28（土） 各地区・ブロック 書類の袋詰開始。

- ・配布日程 3/14（土） 3/15（日） 3/21（土） 3/22（日）

3/23（月）～3/29（日） 配布できなかった封筒の事務所受取。

*2/27（金）までに掃除当番表を完成予定。（教会掃除改善プロジェクトチーム）

*封筒配布当番は、3ブロックは10時ミサ前後の当番とする

3) 復活のお祝い会と初聖体のお祝い会 4/12(日)

地区役員と教会学校担当 予算15万円。

*新年会は開催なし。(1月11日10時ミサ中に新成人祝福式を行う)

4. その他

1) イグナチオ喫茶

12/7 灘北2・阪神 1/4 東灘南 2/1 灘南・神戸西 3/1 灘西・中央
4/5 東灘北1

2) 2026年度地区会役員交替報告締切: 1/31(土)

交替新役員のフルネーム、電話番号、メールアドレスは必須。

3) 地区会の役割について(2026年度の課題)

地区会の教会行事の担い手としての役割が軽減していくなかで地区会の存在意義について議論があった。

教会に来られない高齢者を含めて地区の共同体のつながり・交わりをどのようにして深め進めていくのか、組織改編も視野に入れて検討するのが2026年の課題と思われる。

以上

次回、第6回地区役員会 2/15(日)11:30～ 第1・2会議室

≪ 図書室からのお知らせ ≫ 11月に入った図書

☆ エコロジカルな回心のための霊的な旅路 — 『ラウダート・シ』からの呼びかけ

エリック・シャルムタン, ジェローム・ゲ(原著)/中井 淳, 太西崇生(翻訳) 教友社

「生態学的危機は心からの回心への呼びかけです」という教皇フランシスコの『ラウダート・シ』におけるメッセージにどう応えていくのか。本書は私たちの内的な荒れ野を緑へと変容させていく一つの道を示す。聖イグナチオの「霊操」に基づきながら提供される聖書の言葉、先人たちの深い洞察の言葉、多様で豊かな祈りの材料が、あなたを土と草の匂いがする祈りの旅路へと導いてゆくだろう。

☆ 『冬のはじめ』

こいずみゆり 作 あずまあかね 絵 文芸社

春って本当に来るのかな? 歌から絵本が誕生しました。

≪お願い≫

- ※ 図書室が土曜・日曜以外は施錠されています。信徒のみなさんは鍵を借りて入室できます。
- ※ 教会に図書を寄付・寄贈される方は、信者や教会図書室利用者に、その書籍の推薦文や、教会図書室に相応しい旨のアピールを添えて事務所に申し出ください。
- ※ その他、気付きのこと、希望の図書等ご遠慮なくお知らせ下さい。メモにお書きいただき、**図書室内のご意見箱**にお入れ下さるか、**事務室**にお預けください。

お知らせ

教会掃除改善プロジェクトチームが立ち上がり、新年度からの教会清掃の新しい形を模索しています。

(2026年度より教会清掃はこれまでの地区会担当から有志による清掃に変更となります)

・11月から12月にかけて配布したお掃除アンケートによると、現在までに9グループと個人で30名の皆さんが、掃除当番に応募してくださいました。

チームでは、外部委託業者の活用も含めて、年間54回の清掃をどのように割り振るかを考案中です。

・これまで2か月に一度大阪シナピスに依頼していた清掃は、事情によりお断りしたので、今年度中は、私たちプロジェクトチームが代わりに行っています。

・さらによいご提案、アドバイスがあれば、ぜひ、教会事務宛てにお知らせください。

《 訪問コーラス 》

コーラス部は12月9日（火）、老人ホーム「グランダ御影山手」に歌の訪問に行ってきました。指導・指揮の清水真理子さん、伴奏・熊澤加代さんと共に、部員21名で歌いました。コロナの間、5年も訪問が途絶えていましたが、2024年のクリスマスから復活し、今年も訪問できました。披露する曲目については入所者さん達のご希望もあり、昭和歌謡も練習して行きました。「青い山脈」、「川の流れるように」、「赤鼻のトナカイ」、「ジングルベル」、「きよしこの夜」、「上を向いて歩こう」の6曲です。鈴木 肇さんがサンタさんに、船井 孝祐さんがトナカイさんの扮装をしたのが受けて、高齢の入所者さん達も大喜びでした。「きよしこの夜」は、みなさんと一緒に歌いました。（北上千恵子）

《 クリスマス音楽の集いを終えて 》 12月21日(日)

2025年12月21日（日）14時より、「クリスマス音楽の集い」を開催しました。教会内外より192名ものお客様にお越しいただき、カトリックの特別な恵みの年であった聖年と重なったこともあり、一段と希望に満ちた集いとなりました。



その準備として、夏の暑い頃から音楽チーム長の三浦優子さんを中心に、聖歌隊の選曲や他教会より出演していただけた方々に連絡を取り始めました。「クリスマス音楽の集い」が聖年の閉幕に近い待降節中に行われるということもあり、聖母マリアや平和を祈るテーマに基づいて選曲されたものが多く、待降節から降誕にかけての流れに合う曲順としました。ヴァイオリンやフルートの演奏もあり、とても多彩なプログラムになりました。聖歌隊は9月半ばより練習を重ね、当日は40名が出演しました（写真）。

プログラムの最後に聖年の公式聖歌「希望の巡礼者」を全員合唱した際には、大きく力強い歌声が聖堂に溢れ、音楽が持つ力をより深く感じられました。当日お寄せいただいた102,678円の献金は、11月に大規模火災のあった大分市佐賀関へ全額お送りしました。音楽を通して、様々な苦しみの中にある人と共に祈り歩んでいけることに感謝したいと思います。（松井公子）

12月6日（土） 神父様バンド IN カトリック神戸中央教会



12月6日（土）13時よりカトリック神戸中央教会主聖堂で「クリスマスチャリティーコンサート2025」が開かれました。オルガン、ピアノ、ギター演奏、そして、聖歌からビートルズメドレーまで盛りだくさんの演目がありました。司祭バンド Amens はプログラムの最後に出演。日ごろ多忙な司祭様10人が声を合わせて聖歌やクリスマスソングを歌いました。当教会からは加藤神父様と渡辺神父様が出演されました。最後は教会学校の子供たちも舞台上がり、BELIEVE（杉本竜一詩・曲）を、声を合わせて歌いました。

12月25日（木） ミニコンサート～主の降誕に寄せて～

2025年最後のミニコンサートが12月25日（木）10時ミサ終了後に開かれました。出演はオルガン奉仕者の三浦優子さんと独唱奉仕者の西川 葉さん。それぞれのソロと共演が終わるたびにひとしきり拍手が起こりましたが、最後は「ブラーバ！」の声とひととき大きな拍手がいつまでも続きました。



園芸だより

♪「サザンカ サザンカ 咲いた道、たきびだ たきびだ 落ち葉たき」——

サザンカと聞くと、童謡「たきび」を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。山茶花（サザンカ）は花を眺めて楽しむだけでなく、その名のおり新芽の葉をお茶として味わうこともできる植物です。今年もバックヤードでサザンカが美しい花を咲かせています。



教会のサザンカは現在の聖堂が建てられた1995年に植えられました。今は大きく育った桜の木が当時は若木で小さく、教会に入った時に正面に倉庫や流し台が目に入って美観を損ねていたため、目隠しの目的で生垣として植えられたそうです。シシガシラ（別名カンツバキ）というサザンカ系の品種で、毎年11月から3月にかけて白と濃いピンクの花を咲かせています（写真左）。たきびが体を優しく温めてくれるように、鮮やかな花は寒さに縮こまった心に明るさを届けてくれるようです。

園芸係はこのバックヤードを含む、教会全体の外回りの保全と美化の仕事も担当しています。日々の作業の中で雑草を抜いていますが、年に2回、カトリック社会活動神戸センターの方々にもお手伝いをお願いしています。その日は園芸係も一緒に作業しています。春の桜の花びら掃除や秋の落ち葉掃除も、信徒の皆さまにご協力いただきながら行っています。夏には当番制で芝を刈っています。

12月には花壇を春の苗に植え替えました（写真右・信徒会館前）。年に数回、花壇が土だけになる時期がありますが、これは次に迎える苗が元気に育つための準備の時間です。古い根を丁寧に取り除き、殺虫剤を撒いて一週間程度置きます。次に新しい土と肥料を加えて耕し、いよいよ植え込みです。花壇全体の配色や植えた時の陽当たりを考慮して配置をデザインします。花壇ごとに植える苗の種類は大体決まっていますが、年によって花屋に並ぶ種類には変化があり、気象の影響などで思うように育たないこともあります。その時は他の花壇へ移動させたり、新しい苗と数株入れ替えたり、無駄が出ないように工夫しています。



園芸係の活動では、暑さ寒さや蚊などの害虫に悩まされることもありますが、植物のお世話をすると心が落ち着き、元気をもらっているのを感じます。ふかふかに準備した土に植えた春の苗たちが根付き、元気に育つ様子を皆さまにもお楽しみいただけたらうれしいです。サザンカの花が終わる頃には、教会のあちこちで春の花が華やかに咲き誇る季節が訪れます。

新しい年も教会が安全で美しい祈りの場になるよう、園芸係の一員として活動できることを願っています。（施設管理部 島根 朋子）

【園芸係よりお知らせ】

・昨年11月12日、毎日曜日の落ち葉清掃に多くの方にご協力いただきました。感謝申し上げます。

・教会内のレモンの実が豊作でした。12月のイグナチオ喫茶で販売させていただきました。13,800円の売り上げは教会の会計に納めました。



←子どもたちも落ち葉掃除をお手伝い。



今年から小教区評議会の行事となった大掃除。12月6日（土曜日）の落ち葉清掃に集まった皆さん。

第二回
ハラスメント研修会



安心して参加できる 教会生活を目指して

2026



1月25日 日 11時15分～

イグナチオホールにて1時間程度

講師 敷島 康雄 大阪高松大司教区
ハラスメント対応委員会委員

カトリック校で教員を務めた後、教区本部事務局で奉職。
この間、教区発行の冊子『新生の明日を求めて』作成に
かかわるなど、教区委員会活動を経験。



「教会とハラスメント」

—— 最近の教区ハラスメント —— 対応委員会から見えるもの

六甲教会では2024年度からハラスメント対応委員会を発足させ、対応に加えて年一回の研修会を行って広く教会関係者への啓発・啓蒙活動としています。

私たちの教会が安全な空間、安全なプロセス、安全な関係性を保つことが出来るよう共に考えたいと思います。

カトリック六甲教会
ハラスメント対応委員会

【2026年1月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				教会事務休み (～3日)		初金ミサ 7:00のみ
4	5	6	7	8	9	10
主の公現 手話ミサ 10時ミサ中 小教区評議会 準備会 14:00 教会報1月号印刷	教会事務休み (4日の振替)	通常聖年 閉幕			◎灘北2・ 阪神	教会学校始業式 餅つき 社会活動部 炊き出し クリスマス飾り片 付け 13:00
11	12	13	14	15	16	17
主の洗礼 新成人祝福式 10時ミサ中 小教区評議会 11:30 ◎日曜班	教会事務室休み (成人の日)		三日月会 新年会 11:00			教会学校震災追悼 ミサ 15:00 (どなたでも参加 できます)
18	19	20	21	22	23	24
年間第2主日 キリスト教一致 祈祷週間(～25 日) 典礼部会 13:00					◎定期清掃	
25	26	27	28	29	30	31
年間第3主日 (神のことばの主日) ハラスメント研修会 10時ミサ後	世界こども助け合い の日(献金)				◎灘南・ 神戸西	教会報2月号印刷 ◎土曜班

◎印は掃除当番地区(午前7時時点で気象警報が発表された場合は中止)

【編集後記】

◇主のご降誕後の土曜日、教会に見学者があり、簡単に案内しました。聞くと上海からの1週間の個人旅行だという若者。中国には宗教はありませんとなぜか胸を張る?若者に、でも西暦ADはラテン語でAnno Dominiの略で、キリストの誕生以後(の年)という意味だと教えると、驚いていました👍(N.O.)

<p>次回1月号の印刷・発行は1月31日(土)10時半からです。</p> <p>原稿は毎月15日ごろまでに、教会受付へご持参いただくか、FAX、メールでお願いします。 (renraku@rokko-catholic.jp)。皆さまからのご寄稿をお待ちしています。</p> <p>・教会ホームページ(右のQRコード)をご登録ください。教会報や教会の行事等が御覧になれます。</p>	<h3 style="margin: 0;">カトリック六甲教会</h3> <p style="margin: 5px 0;">〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21</p> <p style="margin: 5px 0;">電話 078-851-2846</p> <p style="margin: 5px 0;">FAX 078-851-9023</p> <p style="margin: 5px 0;">発行責任者 加藤 信也</p> <p style="margin: 5px 0;">編集 広報部</p> 
---	--